

Q：福島第一原発からどの位の距離を離れば安心といえますか？

A：原子力・保安院が事故の翌日 3 月 12 日の発表によると、「第一原発正門付近の放射線量が通常の 8 倍、1 号機の中央制御室で通常の約 1000 倍」

これを受けて菅総理が即座に、当初 3km 圏内の住民だけに出していた避難指示を 10km 圏内に拡大、さらに 20km 圏内に拡大、15 日には半径 20km から 30km の範囲の住民は屋内避難、10 日後の 25 日には、国内避難の住民に「自主避難」を呼びかけた。

避難住民の地域を半円を描いて決めるのにはどんな意味があるのか。さらに自主避難とは何なのか。

万が一に備えてシュミレーションをやり対策の策定、マニュアルを作成しておくべき政府も地方自治体も、何も無い状態でのぶっけ本番ですから、対策が後手になるのは当然の結果なのでしょう。安全管理、安全対策後進国の悲劇です。

ただし、保安院では放射能飛散の状況をシュミレーションして汚染状況マップを作成していたところ、官邸の独断で先に半円を描いて避難区域を決め、各自治体に避難要請を出したとのことのようなのです。

では半径 10km、20km に広げていった根拠は何でしょうか。

放射線及び放射能漏れを起している原発から離れば離れるほど放射能を浴びる量は減るからです。

理論を申しますと、放射線の強さは、放射線を放射する放射線物質（第一原発）からの距離の二乗に反比例します。具体的にいいますと、第一原発から倍の距離離れて遠くへ行けば原発周辺で浴びる放射線が 1/4 に減少します。

さらに 4 倍、8 倍離れば 1/16、1/64・・・といった数値は理論上成り立ちます。ですから避難範囲を半円の数値を広げていけば大丈夫と理論上で決めていったのでしょうか。

ところが、皆さんが承知している通り、そうはいかなかった風に乗った放射性物質が遙か遠くへ飛ばされ、30km 圏より外側に存在していた飯舘村等の 5 市町村が「計画的避難区域」に指定され、飯舘村は全村避難した。

富岡町よりも飯舘村の方が汚染度は高いようです。距離で比較すると遙かに近い広野町は警戒地区が解除になりましたから、等心円周上での避難区域決定はあまり意味がないこ

